

モットーは細心にして大胆

肥薩おれんじ鉄道株式会社 代表取締役社長

古木 圭介さん

Keisuke-Kogi

肥薩おれんじ鉄道は、鹿児島県と熊本県および沿線の市町などが出資して、平成14年10月31日に設立された第三セクターの鉄道会社。

沿線の全長は116.9kmで、川内駅から八代駅までの風光明媚な海岸線やのどかな田園風景の中を約2時間半かけてのんびりと走るローカル線だ。今年7月1日にその肥薩おれんじ鉄道株式会社の代表取締役社長に就任されたのが、これまで観光業界の第一線で活躍されていた古木圭介さん。そんな古木さんに肥薩おれんじ鉄道の今後の展望や鹿児島島の持つ魅力などについて語っていただいた。



肥薩おれんじ鉄道の魅力とは

私は、おれんじ鉄道沿線を九州のウエストコーストと呼んでいます。阿久根の近くにある西方海岸や阿久根大島。熊本県側にも砂浜のある海水浴場がたくさんあります。このような美しい自然環境を利用した「九州ウエストコーストの旅」といった企画を立案して、今後、若者でも旅がでさるようなものを作りたいと思っています。

おいしいものもたくさんあります。おれんじ鉄道という名前の由来となったかんきつ類は、年間を通して季節ごとに種類を変え豊富にあります。また、八代海や不知火海で捕れる海の幸をおいしい料理として食べられます。このよう

な季節季節のおいしい味覚に加え、温泉も豊富にあるのです。確かに、テーマパークはないけれど、都会の人があこがれる農村や田舎の風景も残っていて、観光資源として大いに活用できるのです。

経営に当たり今後どういうところに力を入れていきたいと

現在のおれんじ鉄道は、通学の定期券購入が主な収益となっておりますが、今のままでは、沿線人口の減少などに伴い、運営はさらに厳しくなることが想定されます。そこで、交流人口を増すことで、おれんじ鉄道だけでなく、沿線各地を繁栄させる必要があると考えています。

具体的には、鹿児島市と熊本市をマーケットとして、沿線各地で開催される花火大会や川内大綱引きなどのお祭りをパックとして販売したり、新幹線の全線開通も利用しながら、片道は新幹線、途中でおれんじ鉄道も利用するという企画や、熊本から人吉まで通っている大人気のSL人吉とおれんじ鉄道と組み合わせるなど、JR九州との共同企画で大都市圏からの観光客も呼び込みたいと思います。

これまでは営業スタッフが日常業務に追われ、攻めの営業が十分とは言えませんでしたが、「おれんじレディー」としてデビューしたアテンダントを含む営業スタッフも新たに採用しましたので、次のステップとして旅行業を



「沿線の有人駅は、全てボランティアの方々がおこしの一環として運営しています」と古木さん。写真は古木社長と打合せをしている八代駅駅長の岡田さん。

ひとつの柱に、観光客を誘致する営業活動を積極的に行いたいと思います。私が県民の方々にお願したいのは、我々と一緒になって皆さんが何をしたいかを提案してほしいということ。そして、その提案を私たちがキャッチし、アレンジして、地元にお客様を連れてくるので、皆さんには「お客様へのおもてなしをよろしく」と言いたいです。

古木さんのモットーは

父から教わったことですが、モットーは「細心にして大胆」ということです。私は趣味で登山をしています。山はやはり怖いんです。事前に細心の準備をしないといけないと死ぬこともありま。と言って、細心さだけでは、怖いだけで登頂することはできません。そこに大胆さがないと乗り越えられないの

です。また、大胆なだけでは無謀なだけになってしまいます。

だから「細心にして大胆」というのが、父から教わった最大の遺言であり、私の座右の銘です。これは、仕事でも同じことが言えます。経営というのは目の前の1年の計画を見る細心さと、5年後の計画をみる大胆さを同時に進行させないとうまくいきません。この会社をどの方向に進ませるのかを決めるときは、「細心にして大胆」ということに当てはめています。

最後に鹿児島島の観光の魅力を

鹿児島には、観光の魅力が何でもありません。逆にあり過ぎて地元の人々がその良さに気付いていないのが欠点です。

観光は総合産業みたいなもので、物見遊山だけで歴史や庭園を見せるのではなく、鹿児島に豊富にある食という魅力を利用するのです。鹿児島に来て黒豚のしゃぶしゃぶを食べさせて「おいしくない」という人は今までに一人もいません。焼酎もわかりです。鹿児島で飲む焼酎と、例え同じ銘柄の焼酎でも東京で飲むのでは全然味が違います。それは焼酎そのものが違うのではなく、鹿児島という土地がそれをアレンジしているからです。ですから、鹿児島の観光の魅力とは、食べることにまずあると思います。

それから、指宿や奄美大島、与論島などの海は、地中海やエーゲ海よりもずっと優れていると思います。また、桜



「山に行くと、体は筋肉痛になりますが、自然から受ける気によって精神的に回復できます。ストレスを解消してくれる場所が私にとって山です」と古木さん。写真は鳥取県の大山にて。

島と錦江湾の美しい景観は、リゾートそのものだと思います。十数年前に鹿児島を訪れたアメリカ人の女性から聞いた話ですが、「夜に鹿児島に到着し、その日は、そのままホテルにチェックインしました。翌朝起きてカーテンを開け、桜島を初めて目にしてその美しさに感動し、私は泣きました」という印象深い話を覚えています。感動して涙を流すほどの美しいものがあるのです。それを鹿児島県民は、もつと誇りに思うべきです。南フランスでは、自分がリゾートに住んでいるという意識を持っているので、その街に住む人たちがみんな「私の街はすばらしいよ」と言っています。だから、南フランスには人が集まるのです。鹿児島の人にもそう言い続けられたいのです。